

たそがれけんぱい

平成16年度 第2回 初・二段審査会 ☆☆☆☆☆☆ 14名 が合格

二月十日高崎武道館で高崎支部平成十六年度第二回剣道初・二段審査会が開催されました。第一回は昨年十月三日

に行われ初段五十七名二段十二名が誕生しております。今回は初段には九



大きな声をと訓練：藤木先生

このような心持ちでと強調されました。その後実技、剣道形筆記と肅々と進められました。実技と剣道形は飯塚副支部長淡島、藤木、長井、倉本それぞれの厳しい審査の目がひかる中行われました。初段受審の人は日本

名のみなさん二段には七名のみなさんが挑戦いたしました。審査の前日には日本剣道形の講習会が開催され挑戦者たちはこの講習会にも参加して準備万端での挑戦となった。

審査はまず支部藤木事務局長が審査の心構えを説きとりもなおさずとにかく”大きな声”を”自分の剣道をみてくれ”

剣道形の審査には相当緊張するでしょう。特に今回は受審者が少ないから審査員の視線も相当重荷。



わたしの剣道を見てください：互いに渾身の面を



厳しい視線で見極める支部先生達

第14号
発行場所 高崎市石原町高崎武道館内
発行責任者 剣道連盟高崎支部
広報担当 上條
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



ほらハラドキドキの富所・工藤君の形演武

シーンとして行っているなか一本一本決めて行かないかなければならないんだから。それも自分だけ勝手にやってみては形にならない。間違った時は頭の中は真っ白だよ。でも落ち着いてやり直せばなんとか。二段挑戦者は初段挑戦者よりもやはり力強い

第一回 合格者氏名

- 【二段男子】 齋川雄一郎、高橋修平、亀田裕昭、木村俊介
- 【二段女子】 飯塚千明、田村彩夏、湯淺瞳、井田絢子、上村舞
- 清野唯、近藤明日香、佐藤清美
- 【初段男子】 富所諒、元村俊樹、植原健斗、植原悠斗、丸山大地
- 富田正橋、中澤寛一、福山優作、田中秀門、今井洋輔、得居勇斗
- 井田智也、高橋佑すけ、佐藤駿太郎、小倉佑一、金澤洋介
- 竹内駿、松本頼明、坂本泰輔、大田真、城田駿、中澤宏
- 神山公亮、清塚憲太郎、高井雅之、後藤弘樹、大木翔太
- 須賀雄士、早川武志、吉井秀利、飯塚利貴耶、小澤裕弥
- 佐藤拓朗、大谷昌宏、松本昂久、今井和也、山田英之
- 【初段女子】 中堀宏美、吉井美季子、高橋麻理恵、俣田咲
- 福田真由、清野葉、武井晴奈、和田彩花、平井沙奈美
- 吉田幸恵、中島亜弓、清水杏奈、竹田恵未、庭屋葉月
- 稲沢紫穂、黒岩明利、紋谷奈央子
- 上野由佳、田中里奈
- 黒澤直美

第二回 合格者氏名

- 【二段男子】 富所幸治、工藤義彰
- 【二段女子】 田代敦子、小見隆、竹本尚美
- 【初段男子】 中嶋隆明、吉田一貴、中村純也
- 【初段女子】 矢野純子、須藤ジーン、宇田川智美、金澤菜里奈
- 野中裕花、寺田晴香



演武が行われました。しかし稽古が受験勉強などで遠のいている中学生受審者二名が残念ながら不合格となってしまった。彼らにはまた再挑戦を期待したい。また二段受審者も剣道形に大変緊張した人がいた。お互い緊張しきって相互にやり直しはらはらドキドキの場面もありました。でもなんとかやり通し見事合格されました。これで第一回審査（平成十六年十月三日実施）と合わせると初段六十六名二段十七名が平成十六年度この高崎支部から誕生したことになります。この人達がこれからも長く剣道が続いていつて何らかの形で日本剣道文化の伝承に係わっていただくことを心から期待したいところです。



片岡中挑戦者：学科最後までネパッチ

剣道通じて目指すこと

剣道二段 富所 幸治

周囲の大人の方々、諸先生方、書き物の中で言われるのは、一に鍛錬、二に鍛錬。厳しさの中に自分を追い込みその「気」が充実した時「本質」を体得できるという。その力が最終的に自らの人間形成において大きく影響すると言われている。ところが高校三年生になろうとしている今、正直なところ、それがよくわからない。

私の毎日は早朝、放課後、土日の稽古と竹刀を振らない日は殆どない。そんな毎日でも未だに剣道の本質を見出せていない。確かに真剣さや心構えが全然なっていないからなのだが……。そんな中途半端な私が何故剣道部をやめないでいるのか考えてみた。自分は強い選手、技を次々と出す器用な選手、才能ある特別な選手ではない。むしろチームに迷惑をかけてばかりの選手の部類である。しかしそんな自分でありながら、高校一年の最初の試合でよくわからないまま一本勝ちしたあの快感が忘れられないのだ。それは練習（とても鍛錬とは言えない）の成果というより、おぼろげながら心身共に充実した気力の一打だったような気がしてならない。「今だ、ここで面だ。」と心の中で叫んだ会心の一打を偶然体験した時からもう一度この一打を自覚して打ち込んでみたい。私は勝敗にこだわっているのではない。五分間の試合に気力を集中させ、無心になって相手の気と自分の気がぶつかり合う場面。今の自分にわかる剣道の魅力はそこにある。日々の練習を続けていくことでしかこの会心の一打に巡りあう機会はないということもわかってる。そしてそれが「継続は力なり」という言葉に通じていくこともわかっている。剣道のみならず人生のあらゆる場面にもこの力は通じるだろう。私は今後も剣道を続けるつもりである。会心の一打を求める気持ちが今後の自分を支えてくれると信じている。

新初二段のみなさんに剣道・仲間・部活への想いを綴っていただきました。



剣道通じて目指すこと

剣道二段 竹本 尚美

自分が剣道を通じて目指すこと。それは大きな人間になることです。もちろん体格などの問題ではなく、精神的な意味です。よく「剣道は人間形成によい」と言われます。自分はそれを知って剣道を始めたとはいえ、他人の目を気にして自信なさげだったのが、堂々と自分の考えを主張できるようになりました。自分は剣道始めて二年もしない初心者です。そのような自分が剣道について語るのには恥ずかしいことなのですが、短い期間なりに感じたことは「剣道は心が強くないとやっていけない」でした。堂々と構え、攻められても逆に攻め返しただけ近づこうと努力してきました。毎日堂々と強気で稽古を行っていたのが、普段の日常にも出てきたのだと思っています。また、剣道部へ入部しなければ味わうことのなかった喜びや悔しさ。出会うことになった先生方や仲間達。そのすべてが自分を成長させたのだと思います。自分はまだ十七歳で、まだまだ子供です。二段をいただいたとはいえ、未熟者に変わりありません。自分はこの先ずっと、社会人になっても剣道を続けていきたいと思っています。その中で常に、たとえ相手が全日本優勝者であっても、決して弱気にならず堂々とした剣道が行えるような剣道家を、いつも堂々とされていて、困難も冷静に不動心で乗り越えられるような大人を、たくさんの方を経験し、他人に影響を与えられるような立派な人間を、剣道を通じて目指していきたいです。

部活と仲間

私のいる女子剣道部は、二年生が2人、一年生が3人の計5人の部活で、練習は男子剣道部員達と一緒にやっています。私が一年生の時、部活には三年生の先輩が2人と一年生が私を含めて4人の部活でしたが、先輩が卒業し友達が一人辞めてしまい、部員が三人になってしまいました。一人は小さい頃から剣道をやっていて、気さくで明るく面白い子で、みんなから好かれています。もう一人の子は私と同じで中学に入ってから剣道をした子で、とてもまじめで頭のよい子でした。けれどその子は二年生になる位の頃大阪へと転校して行ってしまい、とうとう二人だけになってしまいました。私とその転校して行ってしまった子は友達ではあったけれど張り合えるように剣道を学んでいたため、その子がいなくなってしまうと何か寂しく、物足りない気がしてやる気が起きなくなってしまいました。そしてその子がいなくなって私はようやく、部活の仲間の大切さに気付きました。私達はお互い衝突が多く自分の思っている事は絶対に曲げたくないという性格だったので仲直りにも時間がかかりました。それでもやっぱり部活は一緒に楽しくやっていた。その子は今では大阪の学校で毎日楽しく剣道をやっているそうです。だから私も負けないう頑張ろうと思えてくるのです。

私にとって部活とは、仲間と頑張ろうと思える場所であり、仲間とは一緒に剣道をやって楽しい、うれしい、これからも一緒に頑張っていきたいと思える大切なかけがえのない友達だと思います。



剣道初段 寺田 晴香

総行会ホームページにアクセスしてみませんか。県内の試合の結果や試合の動画が見られますよ。支部の石田先生が忙しい時間を削って作成していただいているページです。片隅にこの「たそがれ」も創刊から掲載されています。ぜひアクセスを

高崎支部 初大会 大将 副将 三将 中堅 五将 次鋒 先鋒

平成十七年二月二〇日ぐんま武道館で五月に大阪市で開催される第五十三回全日本都道府県対抗剣道大会の群馬県予選大会が開催されました。全県下、男女七十八名の選手達が七つの将の座を競い合いました。もちろん高崎支部からも多くの腕におぼえありき雄が挑戦をしました。



渾身の突き技を決める：谷八段

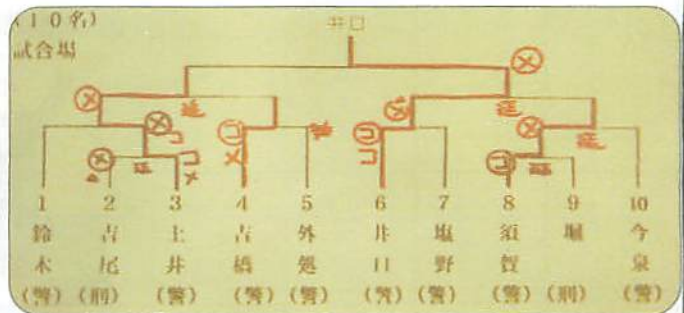
大将の部には昨年末八段を射止めた谷が出場、準決勝では支部小幡七段と対戦し共に好試合を演じてくれました。谷八段ではの突き技が見事にきまり小幡を退けました。小幡選手善戦で第三位入賞です。谷は決勝戦で前橋支部の原選手と対戦。お互い手の内は知り尽くしている相手。なかなか双方勝機が見出せないまま延長に次ぐ延長。ふつと原選手、双方体の離れ際、気が途切れたか・・・この一瞬をとらえ谷引き面技。これが見事に原を捉え審判旗三本が一斉に高揚しました。

はそれまで甘楽の内藤、藤岡の田口を退けての対戦。一方小幡は桐生の城田そして勢多の長澤を敗れてきました。小幡は果敢に谷を攻めました。面、そして小手となかなかうならせる打突が栄えました。結局谷が貫禄の中で面技を、そして谷なら



先の面技を放つ石田：対井下戦

部で発心館出身の井口が優勝。都道府県対抗は晴舞台、大いに頑張つて欲しい。次鋒の部で小笠原が準優勝です。副将の部で石田が第三位入



飯島選手の脚技を見切る倉本

賞。倉本選手も甘楽の二

大会結果

- 【大将の部】 ①谷勝彦 (高崎) ②原三郎 (前橋) ③斎藤尚之 (多野藤岡) ③小幡学 (高崎)
- 【副将の部】 ①小竹稔久 (佐波伊勢崎) ②井下勝生 (勢多) ③栗原仁 (勢多) ③石田寛 (高崎)
- 【三将の部】 ①井口裕史 (県警) ②土井宏一郎 (県警) ③吉橋淳 (県警) ③須賀睦介 (県警)
- 【中堅の部】 ①真藤克裕 (勢多) ②潮田剛 (利根沼田) ③栗原千明 (勢多) ③田中一好 (佐波伊勢崎)
- 【五将の部】 ①高橋美嘉 (館林邑楽) ②反町真由美 (利根沼田) ③倉林久美子 (前橋) ③西村千景 (新田大田)
- 【次鋒の部】 ①猪熊義武 (勢多) ②小笠原俊介 (高崎) ③熊谷淳二 (渋川北群馬) ③町田祐介 (勢多)
- 【先鋒の部】 ①柳直美 (前橋) ②関谷良子 (利根沼田) ③山藤英津子 (桐生) ③関口貴子 (前橋)

坂、藤岡の飯島二者を排し大健闘。神山選手は桐生の石関を排し一勝した。中堅の部では当支部出身の潮田剛が準優勝しました。五月一日大阪市で行われる本大会。七士が群馬の幟を背にして臨みます。八段大将での臨戦は群馬県剣道史上初とのことでありませぬ。大奮闘を期待して止みませぬ。

☆☆☆☆ 二百十余人が集う☆☆☆☆
谷勝彦先生
剣道八段合格祝賀会
 メトロポリタン高崎

平成十七年三月五日ホテルメトロポリタン高崎で谷勝彦八段合格祝賀会が高崎支部主催で華々しく開催されました。祝賀会には高崎支部のみならず、各地で剣道振興に携わる多くの剣友たちそして谷八段の出身校筑波大学剣道部の先生先輩仲間達が全国から駆けつけてくれました。総勢二百十余名



独楽体：今日だけは回転数をお下げて

のみなさんが昇段を祝ってくれました。会発起人代表で橋本支部長が挨拶の言葉を述べられ、そしてお祝の品が贈呈をされました。それからと来賓の方々から多くのお祝いの言葉をいただきました。主役の谷八段はこの日ばかりは奥様と終始壇上に。八段の榮譽も内助の功なくしては・・・やはりです。心感謝の念を向けられ



記念品贈呈：橋本先生

ているのは奥様に對してかも知れませんね。宴も盛り上がった。最中高崎市木遣り保存会 粋和會の



木遣り：粋和會のみなさん

みなさんによる「祝い木遣り」が披露されました。大工士たちが建舞の際に詩ってきたのが木遣りだそう。これも日本文化の伝統ですね。みんな



内助の功を讃えるたんぽぽ隊

そして多くの人はそのまま市中第二次審査会場へ向かいました。第二次会場は駅からほど遠くないところ。久しぶりに高崎の町並みを一寸だけ歩きました。会場には支部の仲間達、筑波の仲間達それに愛弟子達と大人数がお揃いでした。久々に支部行事にご登場いた



万歳三唱：別府先生

で守り後世へ残していかなければなりません。また会場南側上段に谷八段の審査当日の模様が大きな映像として披露された。まさにため息がでるような、目の覚めるような打突を目の当たり。会場は大歓声が巻き起こりました。谷八段の挨拶にある「得意な機会に得意な技が出せたこと」この一語がまさにと感ぜられる映像でした。宴の後は県剣連別府理事長により万

がら身近な師が八段に昇段されたことは後につづく支部の剣道愛



まあまて 谷の全ては拙者が：筑波の先輩

信道場での稽古振りやら、一緒に全国大会にいった話やいろいろなご披露していただきました。そして筑波大学での仲間達も谷先生の当時から将来大器振りの一端をいろいろと紹介していただきました。ローマは一日にしてならず、師のこれまでのご努力には私達には計り知れないものがあります。しかしな



昔話：小野塚先生

お詫びと訂正
 前号支部長先生のご挨拶文の中で正しくは「掉尾(とうび)を飾る」の表現を「たく尾を飾る」と誤った表現をしてしまいました。先生のご趣旨をみなさんに正確にお伝えできませんでした。お詫びして訂正いたします。

当回行事予定

- ◇四月二九日 中体連春季・寺尾中◇五月七日 県高校総体個人
- ◇五月八日 少年剣道錬成大会予選(道場連盟)ぐんま武道館◇五月十四日 剣道七段審査会名古屋市◇同日 高校総体団体
- ◇五月十五日 剣道六段審査会 名古屋市◇五月二九日 五・六・七段選手権・全国女子選手権予選 ぐんま武道館

編集後記

新しい年度を迎えました。入学卒業そして転勤など、華やかなそして緊張の一ヶ月です。早く明けてまた剣道をたつぷりと。陽気もは最高の季節になります。支部も四月三日に平成十七年度の運営指針をご協議頂きました。また支部のみなさんの協力と活動を期待して止みません。